「地域に生き　世界に伸びる」は永遠のテーマ

前理事長　蓑茂　壽太郎

本学の６０周年を前にした平成１８年４月１日に何もわからないまま法人化で新たに誕生した理事長職を拝命した。大学の価値向上が種々議論され、社会で大きな話題となりだしの頃だったので、法人化当初の理事長に与えられた使命が何であるかはすぐにわかった。

熊本県立大学を県の一行政機関から独立させて自立と自律の大学にすることである。そこでまず考えたのが大学の理念である。みんなに共有され、簡単明瞭な理念である。共感を得る理念である。私が考える理念は行動に結びつくもので、芯の無い行動で後悔することを危惧した。熊本県立大学は創立から還暦を迎えようとする大学であったから、既に立派な方針を掲げていた。しかし、これが行動に結びつく距離にないと思えた。

そこで「地域に生き　世界に伸びる」のスローガンを掲げ、これに向かってすべての行動をデザインするようにした。ステークホルダーに学生、保護者、卒業生、そして県民の四者を掲げ、学生ファーストの大学運営を優先した。二つ目の保護者は日本の大学では授業料や学生時代の生活費の多くを負担しているので、強い関心を示す人・ステークホルダーの一人と位置づけた。また卒業生の同窓会との協働による校友力の発揮につながるよう全国の紫苑会に協力を仰いだ。そして県が設置した公立大学の性格上、県民への貢献、もちろん国民に役立つ地域貢献に尽力することにした。

大学の地域貢献は研究と教育が基本、しかし二つだけでは不十分と思いＣＰＤセンター・社会人の学び足し・学び直しセンターの設立もした。「地域に生きる」と「世界に伸びる」は車の両輪でなければならないというのが私の強い思い。熊本県立大学は地域になくてはならない大学であると同時に、大学に求められる多様な活動の一端を担うことで、世界唯一の大学となる可能性が大いにある。大学進学率６０％は大学ユニバーサル時代の幕開けである。多様性がことのほか重要とされる時代に、エリート教育も大学教育を経ないと取得できない専門職の育成も、そして教養豊かな社会人養成も、すべてに取り組む大学であり続けてほしい。

大学の価値向上に繋がる大学院の充実

名誉教授（前学長）　古賀　実

平成 22 年（2010 年）4 月、大学院文学研究科英語英米文学専攻博士後期課程が開設され、３学部全ての学科に直結する高度人材養成課程が整備されました。大学院の設置には学部開設にも勝るとも劣らない教育研究理念、人材養成の目的、教育研究課程、教員組織の審査、学位審査基準の明確化などが求められ、多くの方々がその業務に当たられました。

大学院開設後も各研究科において研究力の向上及び学位の質向上に向けた取り組みがなされていますが、修業年限の厳格化や博士論文の公開方法など学位授与、審査の過程など社会の関心は高まるばかりです。また、社会人、海外からの留学生受入に向けた対応も迫られてきました。平成 25 年（2013 年）10 月、水銀に関する水俣条約外交会議が熊本県で開催され、水銀の使用削減を目指した国際条約が締結され、水俣病を経験した熊本県は率先して水銀フリー社会を目指し、水銀に関する研究促進、研究人材育成のため、水銀研究留学生奨学金設立の提案がありました。熊本県立大学では以前から研究者間で交流のあった国立水俣病総合研究センター（国水研）との間で連携大学院協定を締結し（2013 年 6 月）、共同で水銀に関する教育研究に当たることとを目指していましたので国水研との協働事業の一つとしての位置づけも可能であると考え積極的に制度の導入を図ることにしました。新たな留学生支援制度の導入にあたっては公募、選考方法、受け入れ態勢など課題山積でしたが、関係者の努力で短時間の間に制度を整え、2014 年秋入学から学生を受け入れることができました。また、中国政府より派遣される中国国家建設高水準大学公費派遣研究生の受入も検討し、急遽北京大学での面接試験、同年秋入学に間に合わせました。こうした留学生が３年間の研究成果をまとめ、この秋修了予定であると聞き、留学生らの努力とともに指導に当たられた先生方に心より感謝申し上げます。

大学の機能分化が進む中で、公立大学の立ち位置を考えると修士課程で十分ではないか、との声も聞かれました。しかしながら、博士課程を持つことができる品格ある大学を目指すべきであるし、優秀な後継者を自らの手で育てたい、大学全体の研究力向上に繋がるとの強い意見が多くの方々から寄せられました。お陰様で全教員が文部科学省科学研究費に応募し、教員、大学院生、卒業生が学会賞、奨励賞などの受賞が着実に増えてきました。

熊本県立大学は７０年の歴史の中で共学化、学部学科再編、大学院整備など様々な改革が進められてきましたが、真理探究、人材育成への情熱を忘れず、魅力ある大学に発展し続けていただくことを期待します。